

この本の考え方

この本では、よりよい世界を目指すためにみんなで考えていきたいテーマとして「**貧困**」を選びました。貧困の問題は、どこの国にも、いつの時代にもあり、戦争や格差や差別の原因にもなっています。自分とは関係がないと思う人もいるかもしれませんが、自分の普段の行動が、遠い国の貧困と関わっているかもしれません。貧困の問題をテーマとして学ぶことは、みなさんにとって身近なことで世界の問題のつなぐりに目を向け、自分のこととして考える貴重な機会になるはずです。さらに、それを日本語で学ぶことによって、他の国の人々と知恵を分かち合うことができます。

この本は、日本語教育を通して世界の平和について学ぶことの大切さを教えてくれた縫部義憲先生（広島大学名誉教授）の「PEACE」というコンセプトがもとになっています。このコンセプトは、2009年に行われた最終講義で発表されました。「**貧困**」はこの「PEACE」の頭文字の「P: Poverty」に当たります。縫部先生は平和な世界にするために、これから以下の「PEACE」を考えたいかななくてはならないとおっしゃいました。

- P : Poverty** (貧困からの脱却)
- E : Education** (すべての人に教育を)
- A : Assistance in need** (自立のための支援)
- C : Cooperation & Communication** (協働と対話)
- E : Ecology & Environment** (生命と地球環境の保全)



これらは2015年の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標（SDGs: Sustainable Development Goals）にも含まれているものです。地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」と誓われているように、これらの問題は私たち一人ひとりが取り組むべきユニバーサル（普遍的）なものであると言えるでしょう。

また、この本は、CLIL (Content and Language Integrated Learning : 内容と言語を統合した学習) という教育アプローチに基づいています。CLIL (クリル) では、単に言語だけを学ぶのではなく、以下の 4C を意識して学んでいきます。

	Content 内容	世界で起こっているさまざまな問題を理解する
	Communication 言語	日本語で互いに伝え合う、学習スキルを高める
	Cognition 思考	内容や言語の学習について考える
	Community/Culture 協学・異文化理解	地球市民の一員として、仲間と協調する

この 4C を大きな車の車輪のようにイメージしてみてください。その車には一緒に学び旅するクラス仲間も乗っています。まず一緒に旅する仲間のことをお互いに知り、共に世界のすることについて考えていきます。このように、この本では、「貧困」という内容をもとに、日本語力だけではなく、すべての学びに必要な学習スキルや、深い思考力、互いを理解し協調していく力をつけることを目指します。楽しく学び、この本をきっかけに、よりよい世界をつくるために行動できる人になってもらえたらうれしいです。

